

フィンランディア Op. 26

J. シベリウス作曲

フィンランドの国民的作曲家ジャン・シベリウスが1899年に作曲した交響詩『フィンランディア』作品26は、祖国の自然とロシアからの過酷な圧政に対する人々の不屈の闘志、そして解放への希望を描いた歴史的名作です。1900年のパリ万博に向けてロシアの検閲を逃れるために何度も改訂され、タイトルも変えながら現在の形となりました。

曲は、抑圧された暗い苦悩を象徴するような、金管楽器の重々しく切迫した響きで幕を開けます。やがて打楽器を伴った荒々しく緊迫感に満ちた闘争の音楽が展開され、フィンランド人民の苦難と力強い抵抗がドラマチックに描き出されます。

そして、この曲の最もハイライトである中間部では、胸を打つ崇高で美しい賛歌（コラール）が奏でられます。この部分の旋律はのちに「フィンランディア賛歌」として独立し、独立国フィンランドの第二の国歌とも言えるほど世界中で愛されるようになりました。静けさと情熱が交錯しながら次第に壮大なスケールへと膨らみ、最後は勝利の歓喜を高らかに歌い上げて力強く結ばれます。国民の魂の叫びと深い愛国心が結晶化した、珠玉の管弦楽曲です。